

被爆六〇周年 九条を守り抜く誓いを!

今年の八月六日は、広島に世界最初の原爆が投下されて六〇周年にあたります。

広島平和公園に、労働組合の手で作られた唯一の慰霊碑「全日本損害保険労働組合被爆一〇周年記念碑」があります。この碑には、原爆の犠牲となった損保従業員が祀られており、損害保険産業で働くすべての人々の平和への思いが刻まれています。全損保労働組合は毎年八月六日朝、「損保慰霊祭」を開催しています。

大阪損保革新懇は、前日の八月五日、品川正治さんを迎えての「世界遺産」宮島で平和を語り合う「損保全国集会」のあと、全国からの参加者そろってこの慰霊祭に臨む企画への参加をよびかけています。

全日本損害保険労働組合被爆一〇周年記念碑

— 広島国際学院高校HP「慰霊碑めぐり」での、この碑の紹介文です—

このあたりには、もうひとつ人知れずたつ碑があります。上部表面に「なぜ／あの日は／あった／なぜ／いまも／つづく／忘れまい／あの／にくしみを／この／誓いを」と刻まれています。多くの原爆モノメントの中で、もっとも思想性の高い碑文をもつこの碑が、「全日本損害保険労働組合被爆一〇周年記念碑」です。

「なぜだろう」「なぜなのか」と考えることを放棄したとき、あるいは考えることをやめさせられたとき、民主主義の危機がはじまります。みなさんは「全損保の碑」の重要な問いかけに答えられますか。かならず答えられるようになってください。

この碑は、一九六五年八月六日、全日本損害保険労働組合（全損保）広島地方協議会が、被爆一〇周年を記念し建立したものです。

一九四五年頃、広島では、十四の保険会社に二百人が勤務していましたが、その内八十九名が原爆の犠牲になりました。この碑にはなくなつた人が合祀されています。この碑を建立するため、広島地方協議会は全国に募金呼びかけ、碑文や碑の形などを公募しました。その結果、碑の形は、三十センチほどの小さなミカゲ石になりました。碑文の作者は、被爆者である



保険会社員です。

こうして職場の仲間や多くの肉親を原爆で失つた広島市民の心からの怒りを表わした碑が建立されたのです。

また、この碑の後ろには、第一回原水禁大会と損保平和集会を記念して、蘇鉄の記念樹が植えられています。

広島市内に多数ある原爆関係の碑の中でも、この碑は、

労働組合単独によって建立されたこと。

そして碑文からわかるように、

原爆投下の理由や原爆投下の犯罪性を鋭く指摘していること、平和な世の中を築くために、平和への行動を過去から現在・未来へとつづつてくことを若い世代に訴えかける碑となっていること。

この三点において大きな意義があります。

最高裁判決から一年、判決を守らない 朝日火災・野村證券

関西・朝日火災争議を勝たせる会

六月二十九日、最高裁判決からとうとう一年たちました。しかし未だに朝日火災・野村證券は判決を守ろうとしていません。信頼と信用をモットーにする金融産業が、最高裁判決を守らない…とついでに許されることではありませぬ。

六月二十二日、大阪での「野村證券包囲終日行動」には、早朝ピラ・玄関前抗議集会・昼休み抗議集会・抗議要請行動（野村證券・朝日火災・近畿財務局）など延べ四五〇名が参加しました。二十八日、野村ホールディングスの定例株主総会では、全損保労組・吉田委員長が親会社としての責任を厳しく追及しました。

六月三〇日、中労委二者委員の合議により、「九月五日に和解案を双方に提示する」ことが決定されました。